「令和５年度　市民トーク」開催結果（牧之原地区）

以下のとおり結果を報告します。

１　日時等

（１）　日　　時　　７月 26 日（水）　午後７時 00 分～午後８時 30 分
（２）　会　　場　　牧之原コミュニティセンター
（３）　内　　容　　市長からの市政報告・地区からの質問
（４）　参加人数　　３０人

２　市長からの市政報告

当日の配布資料を添付

３　地区からの質問

別紙のとおり　※事前質問は回答書を配布・当日の会場での質問なし

４　当日の様子

令和５年度　市民トーク（牧之原地区）提出の質問・要望一覧

日時：令和５年７月 26 日（水）
19 時～20 時 30 分
場所：牧之原コミュニティセンター

番号	事　項　名	担当課
1	牧之原地区における人口増加対策について	新拠点整備室
2	原発単独事故及び複合災害時の県外退避について	危機管理課
3	学校再編後の牧之原学区の将来像について	教育総務課

令和５年度　市民トーク
牧之原地区（7/26 開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	①牧之原地区における人口増加対策について
内 容	市長をはじめ、新拠点整備室の皆さまのご努力により、開発地域の環境が目に見えて変わり、牧之原台地に希望の灯がともりました。数年前から、あと 4 年後、あと 4 年後と言ってきましたが、本当にあと 4 年後になりましたことに感謝申し上げます。 農業主体の地域に、大規模商業施設が出店し、産業施設も進出となれば、私たちの生活環境も相当な変化が求められますので、必ずしも 100%の歓迎ではありませんが、第 3 次総合計画の 1 丁目 1 番地に位置づけられた「富士山型ネットワークの構築」により、賑わいと雇用の場の創出、交流人口の拡大や定住意欲に繋がるサービスやライフスタイルの創出に思いを馳せた時、牧之原市の将来を大きく左右する場所である事は間違いありません。 高台開発の最終目標は、定住者をいかに誘致できるか、特に若者世帯、子育て世帯の定住者増にかかっています。 このチャンスを逃したら牧之原市の人口増加は考えられないのではないでしょうか。 開発エリア内の住宅地はせいぜい 50～60 戸程度。 これでは何の効果もありません。開発地を中心にドーナツ化現象のごとく宅地を増やさなければなりませんが、市長は定住者を増やすための施策をお考えでしょうか？ 大規模災害を考えた時、市内からの移住者はもちろん歓迎しますが、牧之原市の人口増加を視野に入れれば、他市町や他県からの移

	住者を募らなければなりません。 　造成地が決まってからの事ですが、少なくても、静岡から浜松までのＪＲ駅にポスターの掲出はいかがでしょうか。ただし、「ＲＡＩＤＥ　ＯＮ　ＭＡＫＩＮＯＨＡＲＡ」などと説明しないとわからないものではなく、これが良い訳ではありませんが「大茶園のど真ん中で新しいまちづくりと子育てを」など、日本語でわかりやすくインパクトのあるキャッチコピーが大切だと思います。 　また、商業施設においては、近隣のショッピングモールよりも内容的にはるかに上回り、リピーターが期待できるネームバリューのある店舗を誘致し、店舗建屋の外にも老若男女が気軽に食事ができる食文化横丁のような集客エリアも、若者世帯の誘致に影響があると思いますので、多方面からの人口増加対策をお聞かせください。 【新拠点整備室】
回　答	高台開発は、牧之原市の定住人口増加に向けた重要施策として、第３次総合計画にも位置づけられております。 　牧之原市ＩＣ北側土地区画整理組合が実施する土地区画整理事業の施行地区内には、大型商業施設や産業施設、住宅、公園やバス停などの公共施設を配置し、市や地域における新たな都市拠点の創出を目指しております。 　土地区画整理事業は、今年１月に土地区画整理組合が設立し、令和８年度の事業完了を予定しておりますが、今後、都市拠点の整備によって生活利便性が大幅に向上し、さまざまな賑わいが生まれる牧之原地区におきまして、安全な高台、大茶園や富士山などの優れた景観なども生かした、安心、快適な住宅用地の整備等を検討してまいります。 　御指摘のとおり、人口増加には他市町や他県からの移住者を募ることが重要です。市内には、矢崎ものづくりセンター、スズキ、小糸製作所、伊藤園、ＴＤＫなどの大手企業があり、市外から多くの人が通勤し、昼夜間人口比率は県内最大となっております。こうし

	た通勤者をターゲットとして、商業施設や学校などから、おおむね２キロ圏内に住宅用地を整備することで、若者がにぎわう、若者が働く、若者が住む、職住近接で持続可能なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。 　職住近接のまちづくりによって、通勤時間の減少による豊かなライフスタイル、排出二酸化炭素の削減などが実現するとともに、国際空港である富士山静岡空港や高速道路に近接し、小学校、中学校が緊密に連携した特色ある学校に通うことができる、誰もが住みたい、住み続けたいと思う地域づくりを目指し、ご提案をいただきましたポスターの掲出や、首都圏での移住相談会や移住セミナーへの参加、個別に市内を案内し、牧之原市に直接触れることで魅力を知ってもらう相談会や、オンライン相談会の充実など、様々なかたちの情報発信をすることで、移住者の獲得に努めてまいりたいと考えております。 　住宅用地の整備につきまして、現時点で具体的な場所は決まっておりませんが、新たな農業を展開するための基盤整備と共に住宅用地を確保する土地改良事業の実施に向けた検討、準備を進めているところでありますので、地区の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。 　また、インターチェンジ北側地区で計画されている商業施設につきましては、現在、土地取得者である大和ハウス工業や関係者が、どのような配置になるか、どのような店舗が入るかなどにつきまして検討を行っております。魅力ある商業施設となるよう、私からも事業者に働きかけてまいりたいと考えております。

令和５年度　市民トーク
牧之原地区（7/26 開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	②原発単独事故及び複合災害時の県外退避について
内 容	牧之原市全体の事ですが、現状における原発事故による避難計画及び退避方法の周知は、不透明で確たるものが見られません。 近々に事故・災害が発生した場合、どのように区民周知を徹底すれば良いのか不安なります。 牧之原区は UPZ 圏内ですから、先ずは屋内退避→避難指示で→自動車でスクリーニング場所へ→その後県外、若しくは交通弱者の場合、徒歩で集合場所→バス等でスクリーニング場所→県外が、大まかな流れだと思います。 両牧之原区の避難先は、避難先１が山梨県、避難先２が群馬県とありますが、避難行動の行程が見えません。 以前お聞きした限りでは、自家用車の場合は、組・班単位での集合、次に町内会単位、最後に区単位で隊列を組んで出発でしたが、どこに集合すればよいのかは各自治会にお任せなのでしょうか。 先導車は、市が担当すると思いますが、各区、各市町が一斉に非難行動をとれば混乱は避けられませんし、電柱１本倒れていても先に進むこともできません。長距離のためガス欠車両もでるでしょうし、災害避難車両のステッカーは十分用意してあるのでしょうか。 最近、大規模、中規模の地震が日本中で頻発しています。 南海トラフの大地震がいつ起きても不思議ではない状況の中、どこの市町も頭を悩ませている問題ですが、牧之原市としての具体的

	な避難行動計画を一日も早くお示しいただきたいと思います。 　もう１点、牧之原台地には放射能測定器が設置されていないと思いますので、関係部署に交渉して、ぜひ牧之原台地にも設置の要請をお願いします。　【危機管理課】
回　答	質問の内容が多岐にわたることから一つずつ整理をしてお答えさせていただきます。 　まず、一つ目の「避難行動の行程が見えない」についてであります。ご質問の内容にもあるとおり、牧之原区はUPZ（発電所から５㎞～31㎞圏内の地区）の地区でありますので、まずは屋内退避をしていただきます。放射線量が一定の基準を超え、避難指示が発令されましたら、山梨県又は群馬県へと避難をしていただきます。避難先にて市民の皆さんに向かっていただく第一目標となる、避難経由所という具体的な目的地については、現在避難先の自治体と協議しているところでございます。山梨県では19市町のうち18市町、群馬県では11市町村のうち10市町村は、避難経由所が決定しています。全ての市町の避難経由所が決定しましたら、説明会の開催方法について地区長会で協議させていただく予定です。 　次に自家用車避難をする際の質問についてお答えします。 　現在の計画では、組・班単位で集合し避難をすることになっておりますが、集合場所の詳細までは決まっておりません。今後、避難者の確認方法等を区及び町内会の皆様と協議をしながら、最適な集合場所を選定していきたいと考えております。 　避難経由所及び集合場所等の詳細が決まり次第、原子力災害の避難行動についての更なる周知・広報に努めていきたいと考えております。

	避難ルートが電柱、がれきなどで通行できない場合には、まずは地元の建設業者の皆さんの協力を得ながら道路啓開を行っていきますが、災害の状況により、自衛隊などをはじめとする国の支援も受け、避難ルートの確保を行うことやガソリンなど燃料の給油体制の構築に向けても、国・県と協議してまいります。 次に「災害避難車両のステッカーの用意」についてであります。 広域避難指示が発令された時点で、高速道路は避難用道路に指定され、一般の方の通行は禁止となり、避難者の通行料は徴収されないこととなっております。避難車両であることがわかるステッカーの配布等については、避難退域時検査場所でも、汚染されていない旨の証明書の交付と共に配布するなどを国・県と協議してまいります。 今後も、国や県の支援を得ながら車両の避難方法の実効性の向上に努めてまいります。 最後に「牧之原台地への放射能測定器の設置」についてであります。現在、電子線量計は市内７か所（金毘羅山、細江小、勝間田小、榛原中、牧之原小、菅山小、萩間保）に設置してあります。常時測定を実施しており、国の原子力規制委員会ホームページで確認できます。

令和５年度　市民トーク
牧之原地区（7/26 開催）
質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	③学校再編後の牧之原学区の将来像について
内 容	先ほど、市長へ定住者増への取組みについて質問させていただきましたが、教育長へお伺いします。 高台開発において、子育て定住者の増は牧之原学区の存続がキーワードだと思っています。 幸いなことに、牧之原学区は残していただけましたので、このチャンスを最大限に生かし、園児・児童・生徒を増やすツールとして活かさなければなりません。 2030 年には義務教育学校が開校します。 リスクを考えなければ、新しい学校へ通わせたいと思う気持ちは保護者なら誰もが考えることだと思います。 牧之原学区を残していただいた以上、地域としても牧之原学区の将来像を模索し、子供たちにも保護者にも、牧之原学区を残してもらえて良かったと思える学校にしなければなりません。 そういった意味では、牧之原学区はフェーズ２に入っています。 ＣＳ（コミュニティスクール）を活用した更なる地域密着型の取組み、発言力・発信力を育てる教育、今一度「心ゆたかに、たくましく」の実践教育など大規模校では一人一人に浸透できない教育が、生徒と先生との関係が密であるこの学区だからこそできると思います。 牧之原では、既に義務教育学校に近い取組みをしていますので、予算面で厳しいことは承知していますが、近い将来には改修または増設で職員室を小中合同にするとか、小中の校舎間に新たに通路を作り、学校の一体化は図れないでしょうか。 義務教育学校で一番大変なことは、小中の先生方の意識改革と伺

	っていますので、牧之原学区をモデル校とし、市内の全ての先生方の研修の場とすることも有りと考えます。 　また、要望書を提出しましたが、防災では広域避難所にもなっていますので、狭隘（きょうあい）なトイレの改修工事もお願いします。 　新校開校となれば、2030 年前後から牧之原学区はおざなりになる可能性がでてきますので、その前に地域や保護者等が疎外感を感じないよう、物心ともに先行投資をしていただき、他市町の子育て世代の人たちが「ここなら通わせたい」と思える学校にしていただければ、子育て定住者も増えると思います。 　幸いなことにこの地域は、学校に関しては非常に理解のある地区ですので、皆さんが牧之原学区の将来像を考えていますし、考えなければならないと思っています。 　教育長には、力強いご支援をお願い申し上げます。 【教育総務課】
回　答	牧之原学区をモデル校とした小中連携事業については、すでに実施している状況です。昨年度には市内全教職員研修の場で、牧之原小中学校の取り組みの成果を発表し、教職員の学びの一例といたしました。 　牧之原小中学校は、校舎一体型に近い環境であることから、授業や様々な教育活動の連携など、小中一貫教育をイメージした実践が可能であるため、これまで行ってきた牧之原学区における小中連携事業を継続していくとともに、これらの実践の成果を教職員の研修の場を通して共有し、意識改革などに繋げてまいります。 　また、牧之原小中学校は、今回の学校再編計画の対象外となっていることから、今後は、牧之原学区の教育のあり方について議論していく必要があります。 　菊川市においても、菊川市の教育のあり方について今年度から検討を始めたと聞いております。したがいまして、牧之原市としても牧之原学区の今後の教育のあり方について、学校組合の教育委員会

	はもとより、地域や保護者などの考えを確認しながら、来年度から具体的な議論をしてまいりたいと考えております。 要望書が提出されている牧之原小学校のトイレ改修について防災上の観点からお答えいたします。 まず、地震等により牧之原小学校が避難所となった場合ですが、トイレつきましては、水道管の破裂又は緊急遮断弁の閉鎖等による断水が予想されることから、屋外に設置する仮設トイレを使用することとなっております。 トイレの改修につきましては、牧之原小学校だけはなく市内小中学校全般に関わることですので、市としましては現状の把握や必要経費などを見極め検討していきたいと考えております。 また、現学校施設の全体的な改修や利活用につきましては、牧之原学区の教育のあり方に対する方針が定まった時点で、計画的に実施していくことになります。 ご理解のほど、よろしくお願いします。